



著者プロフィール

辻田克巳（つじた・かつみ）

昭和6年3月28日、京都生。秋元不死男・山口誓子に師事。句集『明眸』『オペ記』『頬杖』『幡』『昼寝』『焦螟』『稗史』『ナルキソス』のほか、『自註辻田克巳集』『辻田克巳句集』『花神現代俳句 辻田克巳』、共著に『新しい素材と発想』『誓子俳句365日』『名所で詠む京都歳時記』など。俳人協会新人賞、宇治市紫式部市民文化賞など受賞。「幡」主宰。日本文藝家協会会員・大阪俳人クラブ名誉会員・俳人協会副会長。朝日新聞京都俳壇選者。

〈句集『春のこゑ』より転載〉〈2011年7月30日時点〉

『春のこゑ』 (自選15句)

辻田 克巳

御慶まをしぬ嬉どののぢぢはははに
御苑繞れる滄溟に春のこゑ
詩巻微びさせてはならず眼鏡拭く
蟬時雨一分の狂ひなきノギス
柿の種誰も交換してくれぬ
若菜摘む京には田中春菜町
暖かの今日は自乗とでもいふか
行く雁を仰ぐ六歳ともなれば
去年のごとく言ひながら妻種を探る
少年も朽葉蹴散らし国を忿る
年内立春妻も内服棄余る
よく遊べ蝸蚪は水の子光の子
下野の露熱き朝静塔忌
焼いもや居て賣つては困る人
焚火びと大きな話してをりぬ